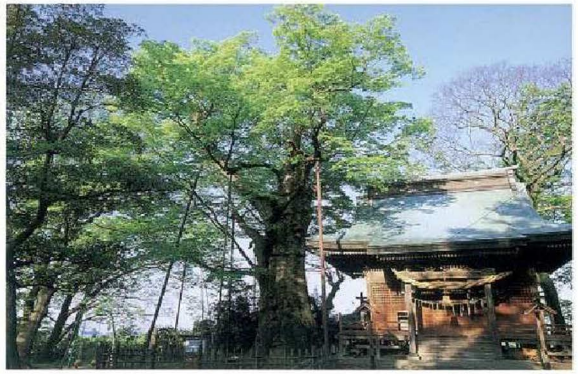
17. 内沼神社と内沼潟

江戸時代の中頃、福島潟は内沼周辺まで広がっていて、ここが福島潟開発の最前線だったと考えられています。社殿に納められている1736(元文元)年の石柱(縦13cm×横21cm×高さ90cm)には、「近江(滋賀県)から新発田に移住した沢村太兵衛の孫の六郎兵衛が1730(享保15)年にこの地を購入し、今は田畑を開発している」と刻まれています。越後平野最大の潟「福島潟」の開発を示す市内最古の資料として、石柱は新潟市指定有形文化財になっています。近くにある内沼潟は、かつては福島潟の一部で、潟開発の歴史を伝える貴重な水辺です。

18. 高森の丘

阿賀野川右岸にあって、標高17.6mの独立したこの丘は、地域のシンボルです。



撮影　橋本建男 氏

■ 高森の大ケヤキ(県指定天然記念物)

稲荷神社の横にある大ケヤキは、推定樹齢1200年で、県内のケヤキの中では2番目に大きいケヤキです。根回り12.4m、目通りのまわり10m、高さ20mで王者の風格です。北区では唯一の県指定天然記念物です。老樹のため幹や枝が空洞化して折れやすくなっており、地域のシンボルとしての大ケヤキを守る養生工事がくり返し行われています。

■ 稲荷神社

717(養老元)年の創建と伝えられ、現在の社殿は1860(万延元)年に建立されたものであると伝わっています。社殿の隣にある舞殿では、祭礼のときに高森の神楽が奉納されます。

■ 高森薬師堂

越後の名薬師といわれる薬師如来がまつられています。さまざまな説がありますが、持統天皇の時代に唐の高僧が暴風雨にあってこの地に漂着し、持っていた薬師如来を安置したのが始まりで、奈良時代から平安時代にかけて、一帯は大小36の寺坊があり3000人の僧が生活するほどに、繁栄していたといわれています。幾度かの盛衰を繰り返しましたが、1704(宝永元)年に京都の仏師 辰巳蔵之助に製作を依頼した薬師如来を、翌1705(宝永2)年にお堂に納めて再興しました。

1974(昭和49)年、前年に火災で焼失した薬師堂が再建され、新しい薬師如来もお堂に納められました。高森集落をはじめ、近郷近在の多くの人々からの信仰を集め、現在に至っています。

■ 薬師山の碑

「薬師山」とは、岡方地区のアマチュア相撲で代々受け継がれた四股名です。相撲は、地域の若者たちの力試しと娯楽として始まり、まつりでは奉納相撲が行われていました。優秀な選手には岡方の地名をとった四股名が受け継がれました。

この碑は、3代薬師山として20年連続で国体に出場した野村敏雄氏が奉納した歴代薬師山の顕彰碑です。

19. 葛塚石動神社(国登録有形文化財)

神社の建つ丘は、「葛塚」の名の発
かつて葛や藤が生い茂り、人々が葛塚と
たため、村の名前になったと伝えられて
神社の創立は、1715(正徳5)年
社殿には1732(享保17)年の棟札
います。境内には「加賀(石川県)から
移ってきた溝口家の家老が新たに開墾をするにあたり、本国の邸内にまつ
石動大神をこの地にまつった」と刻まれた碑もあります。葛塚の歴史とともに
きた神社で、現在の社殿は1796(寛政8)年に建てられたものです。

20. 葛塚古峯神社(国登録有形文化財)

1878(明治11)年に発見され
まつったのが始まりで、火難除け
信仰されています。ほとんどがケヤ
れた社殿は、いたるところに装飾的
あります。木材に「天保八酉年」の
り、社殿はそのころに造られたと思
立派な彫刻を保護するため、社殿には覆屋が造られました。普段は覆
見ることしかできませんが、毎年6月16日の祭礼では覆屋の戸が開かれ

■初版 2008(平成20)年3月　■第4版 2021(令和3)年2月　●発行・著作：新潟市(担当　北区郷土博物館 TEL025-386-1081 新潟市北区嘉山3452番地)　●協力：北宝隊　●印刷：(有)アサヒ印刷クリエイティブ